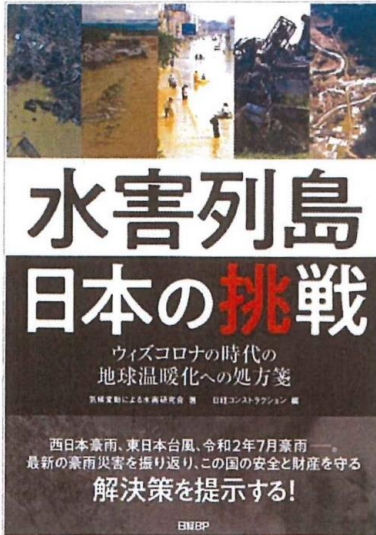


## 【新刊】「水害列島日本の挑戦」／巨大リスクの備え提言



警戒強化を呼び掛ける一冊が完成した

気候変動による水害研究会が新刊「水害列島日本の挑戦～ウィズコロナの時代の地球温暖化への処方箋～」(日経BP)を発行した。研究会メンバーの足立敏之参議院議員をはじめとする国土交通省OBによる共著となり、最新の豪雨災害を振り返りながら、日本の安全と財産を守るため、巨大リスクにどう備えるかという解決策を提言している。最新の気象災害がもたらした被害を分析し、防災・減災を実現するための課題や対処法を新型コロナウイルスという新たな危機が拡大する中で、取り組むべき視点も含めて治水の専門家が解説する内容となる。

同研究会が2018年3月に「激甚化する水害～地球温暖化の脅威に挑む～」を出版し、警鐘を鳴らしてから2年半が経過したが、激甚な水害・土砂災害は毎年のように発生している。また、災害対応の多様化・複雑化に加えて、感染症対策という新しい課題も浮上してきた。足立議員は「災害が激烈になっている。これまでの対応ではだめで、新たな局面にきた防災対策を打ち出し、注意を喚起したい」と話す。

同書では、防災・減災への針路として治水の技術理念や事前防災の成功事例、今後進めるべき取り組みとともに、必要な体制づくりを示した上で「実現に向け総力を挙げよ」と警戒強化を呼び掛けている。

書籍はA4版カラーで184ページ。定価2200円(税別)。